

重要カレイ類の資源評価と管理技術に関する研究

(資源評価調査)

道根 淳・沖野 晃

1. 研究目的

本県底びき網漁業の重要な漁獲対象であるムシガレイ、ソウハチ、アカガレイの資源状況について科学的評価を行うとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うことを目的とする。

2. 研究方法

漁獲統計資料は当センター漁獲管理情報処理システムにより抽出し、魚種別銘柄別漁獲量の集計を行った。また、市場調査ならびに買い取り調査を実施し、調査当日の漁獲物の精密測定を実施し、体長組成を推定した。さらに、これらの調査結果をもとに(独)水産総合研究センターおよび関係各府県の水産研究機関と協力し、魚種別の資源評価を行い、ABC(生物学的許容漁獲量)の推定を行った。

3. 研究結果

(1) 重要カレイ類の漁獲動向

図1に浜田、恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(2艘びき)における重要カレイ類3種の1統当たり漁獲量の推移を示した。2014年漁期の各種の漁獲量は、ムシガレイが343トン、アカガレイが186トン、ソウハチが249トンであった。また1統当たり漁獲量は、ムシガレイが57トン、ソウハチが41トン、アカガレイが31トンであり、ソウハチは平年並み(過去10年平均)であったが、ムシガレイ、アカガレイは平年を29~35%下回った。

図2に浜田港を基地とする沖合底びき網漁業で漁獲されたムシガレイの全長組成を示した。総漁獲尾数は、2011年漁期以来久しぶりに200万尾を超え、前漁期の1.4倍となった。また2012,2013年漁期に少なかった全長25cm以下サイズの漁獲が多く、大きなモードが見られた。但し、過去に300万尾以上の漁獲が

あった年には全長20cm以下のところに大きなモードが見られており、2014年漁期の加入状況は決して良い状況ではないと考えられる

(2) 結果の活用

(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所が開催するブロック資源評価会議に参加し、資源量、資源水準等の推定ならびに管理方策の提言を行った。

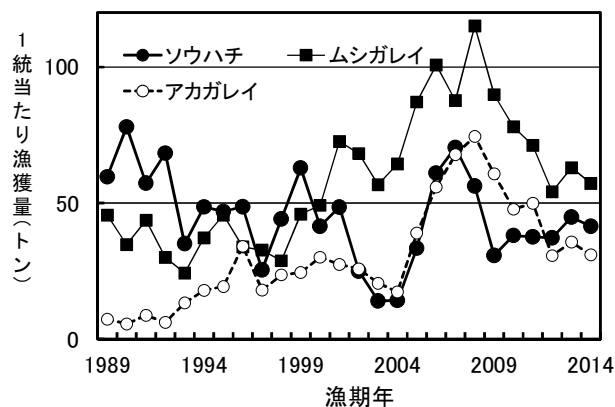


図1 浜田・恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(2艘びき)における重要カレイ類の漁獲動向

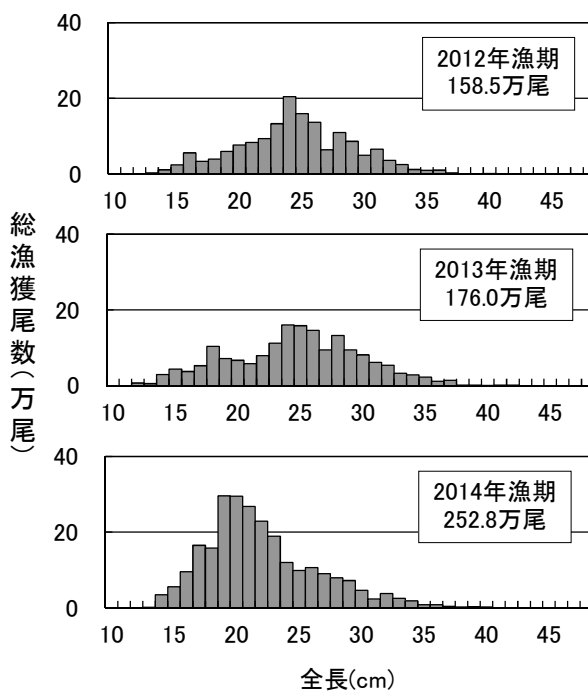


図2 浜田沖底で漁獲されたムシガレイの全長組成